

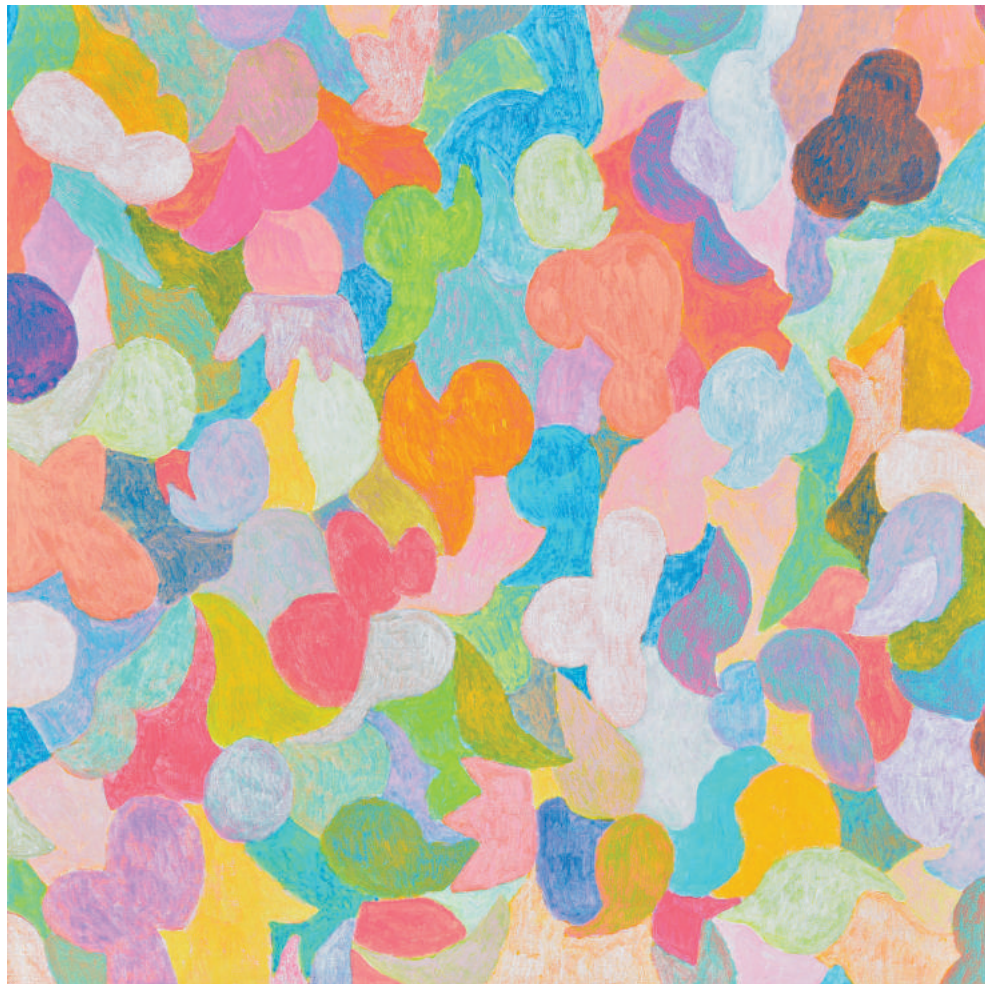
「

BELIEVE

2024
春号
VOL.88

」

特集 令和6年能登半島地震への当院の対応



「桜」小早川 桐子 (エイブルアート・カンパニー所属 <https://www.ableartcom.jp>)

■インタビュー 特別編 ■薬剤部 薬剤部長／治験・臨床研究管理センター長 小林 政彦 ■看護部 看護部長 村上 明子

- 食だより／旬を味わう・春－春キャベツのポトフ ●お薬ミニ知識／抗菌薬の適正使用について
- 緩和ケアチームからのお知らせ ●かかりつけ医をもちましょう
- 「外来・入院患者アンケート調査」結果報告 ●Topics Box ニュース&イベント

大阪赤十字病院の理念

わたしたちは
人道・博愛の赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療をめざします

患者さんの権利

1. 一人の人間として、人権をまもられる権利があります
2. 良質かつ適切な医療を、公平に受ける権利があります
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利があります
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利があります
5. プライバシーがまもられ、個人情報保護される権利があります
6. 自己の診療録等の医療情報の開示を求める権利があります
7. 他施設の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります



令和6年能登半島地震への

当院の対応

令和6年1月1日、石川県能登地方を震源として、最大震度7を観測する「令和6年能登半島地震」が発生しました。当院の国際医療救援部の対応を時系列に沿って紹介します。



▶地震発生直後の輪島市の道路

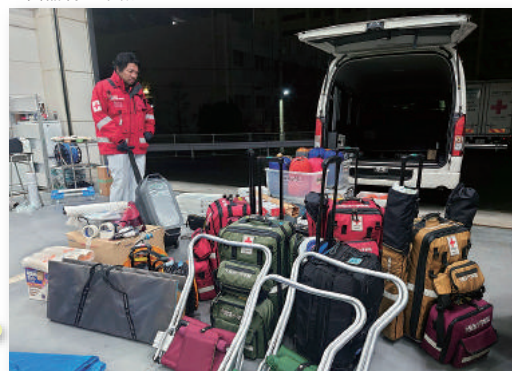
1 「令和6年能登半島地震」発生

令和6年1月1日16時10分、石川県能登地方を震源とする最大震度7の揺れが観測されました。災害時の対応を担当する国際医療救援部の職員は直ちに登院し、

1月1日 地震発生直後

日本赤十字社大阪府支部と連携を図り、情報収集を行いました。同日16時24分には、当院の救護員約150名に一斉メールを送信し、登院の可否および登院可能時間の確認を行いま

▼資器材の準備



2 「日赤災害医療コーディネーターチーム」現地へ派遣

した。救護班の人選と資器材の準備も並行して行いましたが、現地の情報が不十分のため、この日の出勤は見送りました。

翌1月2日には現地の被害状況が徐々に判明し、1月2日9時時点で、石川県内に3万人以上の避難者がおられることがわかりましたが、住宅被害の全容は把握されておらず、断水や停電が起きている地域もあるとのことでした。ひとまず現地で調整をするチームが必要ということで、当部職員2名と、大阪府支部職員1名の計3名で、14時30分に石川県支部へ向けて当院を

1月2日 翌日の対応

このコーディネーターチームは、1月2日から6日まで公立能登総合病院で活動しました。現地では交通や通信の途絶、水不足により、病院が機能不全に陥っていました。また、避難所が分散したことや被災による人手不足のため、地元の行政機関や保健所が迅速な対応を行うことが難しい状況で

3 「日赤医療救護班」現地へ派遣

した。同チームは、他の支援団体と協力して、避難所の実態把握に努めました。

1月3日には医療救護班の派遣依頼があり、医師1名、看護師3名、薬剤師1名、事務管理要員5名の合計10名で班を構成しました。医薬品や医療資器材、巡回診療や救護所運営に必要な資器材はもとより、完全自己完結できるよう、テント、寝袋、水、食料、簡易トイレ、蓄電池を車3台に詰め込み、1月4日に出発しました。

1月3日・4日

金沢市を過ぎると道路は損壊し、渋滞もあつたため、事故を起こさないよう慎重に進み、金沢市から目的地の輪島市まで5時間半かかりました。

4 被災地「輪島市」での活動

輪島市では、主に避難所の巡回診療を担当しました。輪島市内だけでも100カ所以上の避難所が確認されていましたが、保健所も被災していたために各避難所の

1月5日・6日



▶巡回診療

別の避難所の公民館では、下痢や嘔吐の症状を訴える避難者が複数名いるという情報も伝えられ、ノロウィ



▼「ホットルーム」でハンドマッサージ



の職員にだからこそ気兼ねなく話せる、気持ち吐き出せる場所として運営しました。

した避難所の小学校では、現地のクリニックの医師がひとりで診療を行っていました。医薬品などの供給はされていましたが、継続して診療を行うのは難しい状況であったため、救護班は避難者の健康状態を確認し、13名の避難者を診察しました。この時点では発熱者や感染症、災害関連の健康被害は確認されていませんでしたが、断水により手洗いなどが難しく、また下水などの汚物処理が不完全で、今後の感染症の発生が懸念されました。



▶小学校での避難所アセスメント

状況の調査が進んでいませんでした。そこで医療救護班は巡回診療を行うとともに、避難所のアセスメントも行いました。

5日に訪問

1月下旬～

5

その後の対応

まこころのケア班

●「ホットルーム」を開設

ルス感染症などが蔓延している可能性を考え、感染者への処置や衛生環境のアセスメントを目的として現場に向かいました。避難所では、避難者同士が協力して感染対策や衛生状態の維持に努めており、感染症が疑われる避難者は別室に隔離されていました。

その後も当院から、医療救護班を継続的に派遣し、輪島市内での診療を行いました

が、時間の経過とともに徐々に医療ニーズが減少する反面、精神面でのケアの需要が高まってきました。1月27日から出発した救護班にはまこころのケア要員を同行させ、巡回診療を行うとともに、輪島市役所内に「ホットルーム」を開設しました。この場所は、市役所職員などの支援者にリラックスしていただくための場所です。支援者であると同時に被災者でもある彼らは輪島市役所で泊まりながら働き続け、オーバークックの傾向にありました。「ホットルーム」でハンドケアや足浴を提供しながら、日本赤十字社の職員にだからこそ気兼ねなく話せる、気持ち吐き出せる場所として運営しました。

給水衛生支援チーム

●シャワーの設置

一方で、給水衛生支援チームも活動しました。日本赤十字社は海外での災害対応用にフィールドホスピタル（野外診療ユニット）を保有しています。ここには給水やシャワー、トイレなどの水衛生機材があり、日本赤十字社本社、熊本赤十字病院と協同して、断水している七尾市の2つの小学校の避難所に水道を引き、シャワーと洗濯機を設置しました。学校のプールからポンプで水を汲み上げて浄化し、ボイラーで加熱して温かいシャワーが浴びられるようになり、避難者の方々に喜んでいただきました。



▶給水衛生支援チームによるシャワーの設置

information

「令和6年能登半島地震災害義援金」の受付について

令和6年能登半島地震で被災された皆さまならびにご家族の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。日本赤十字社では、令和6年能登半島地震災害による義援金を受け付けています。詳しくは、本誌8ページをご覧ください。皆さまのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



今号はインタビュー特別編として、薬剤部長と看護部長にお話を伺いました。



MASAHIKO KOBAYASHI

大阪府出身。平成22年に京都大学医学部附属病院で薬剤部副部長となる。平成25年より大阪赤十字病院の薬剤部長に就任。平成30年より同じく大阪赤十字病院に新設された治験・臨床研究管理センターのセンター長を兼務。現在に至る。

薬物療法のパートナーとして、患者さんに頼られる存在へ。

薬剤部 薬剤部長／治験・臨床研究管理センター長 小林 政彦

●目の前にいなくても、向き合っていく。

当院への赴任が決まったとき、「歩んできた道がつながった」と感じた小林部長。小学校で赤十字の父、アンリー・デュナン氏の伝記を読んで「人の助けになりたい」と思い、科学が得意だったことから薬学の道へ。なりたかったのは研究者や開発者ではなく、ベッドサイドで患者さんと直接やりとりできる病院の薬剤師である。「学生時代に研修でお世話になった先生が、病院の薬剤師として医師や患者さんと積極的に関わって、とても刺激を受けました」。もちろん医師や看護師に比べて、患者さんと接する機会は多いとは言えない。「新人の頃、退院後に亡くなられた方のご遺族から丁寧なお礼を言われ、なにもできなかったのに、という無力感が胸が詰まりました」。できることは限られている、だからこそ、患者さんと真摯に向き合う心を持ち続けた。そんな小林部長のもと、当院で働く薬剤師は「みんな熱心で優秀だ」と外部からも高く評価されている。

●もっと身近で、深く医療を支える存在に。

既存の薬はもちろん、次々に登場する新薬の効果や安全性などの情報を把握し、医療チームの一員として医師たちと治療の相談をする病院の薬剤師。「あらゆる科の疾病やその薬を熟知しているのが、専門医にとっても心強い存在のはず」。そんな薬剤師の重要性にいち早く気づき、活躍を後押ししてきた当院だからこそ、優秀な人材が育ったのだと小林部長は確信する。「頼られるからこそ、もっと自分を磨いてがんばりたくなる。まさにプラスの連鎖です」。



まだまだ雑念が多い“座禅”。写真は徳大寺芳春院の秋吉則州住職と、座禅後の茶席にて。

数年前には薬剤部長として、バレスチナの難民キャンプを視察。物資も設備も

乏しいなか、全力を尽くすスタッフの姿に勇気をもたらした。「当院では、高度医療のための治験(新しい薬の候補を試すテスト)にも取り組んでいます。薬物治療に新たな希望を生み出せるよう、手間や時間を惜しまず、しっかり患者さんの理解を得ていきたい」。薬剤師が、もっと身近で、さらに重要な、医療のパートナーとなる世の中へ。「この病院とスタッフなら、きつと実現できると信じています」。そう語る小林部長の道は、まだまだ先へと続いていく。



AKIKO MURAKAMI

大阪府出身。日本赤十字看護大学卒業後、大阪赤十字病院に入職。日本赤十字看護大学大学院、日本赤十字広島看護大学の助教を経て、平成16年より大阪赤十字病院に復職。師長、看護副部長を拝任後、令和5年より現職。

置かれた場所で咲き誇る、一人ひとりの看護師に光を。

看護部 看護部長 村上 明子

●学んで気づいた、現場が教えてくれること。

「入職した当初は仕事が遅くて、先輩や同僚、患者さんにまで助けられました」と笑う村上部長。千人近い当院の看護師を統括する立場でありながら、驚くほど軽やかな雰囲気、向き合う相手をホッとさせる。「とても高い志を持って看護師になったというわけではないので。当時は数少なかった看護大学に進んだのも、学生生活を楽しみたい下心があったんですよ」。

飾らない本音を口にする一方で、大学院を経て助教へ進みながら臨床に戻ってきた経歴が、秘めた意志の強さを物語る。「この病院の人間味あふれる雰囲気が好きだったんです。戻ってくることを前提に修行に出た感じなんです。学んだのは、看護師の組織や個人を活かす看護管理。「看護って患者さんのちょっとした変化に気づいたり思いを汲み取ることが重要になるんです。看護師がそれらに注力できる環境をつくっていきなさい」と思っています」。

●楽しむ姿を見せることも、自分たちの務め。

看護師の組織づくりは、病院ごとさまさま。当院の良さは、病棟ごとに師長がリーダーシップを発揮し、スタッフと相談しながら方針を決める自主性の高さだという。「よりの確に患者さんに応えられるよう、ペアで担当する制度を推したのは私ですが、各病棟のやりやすい形で取り入れてもらっています」。たとえトップが決めたことでも、状況や時代に合わせて変えていけばいい、と明るく言い切る。



学生に教え教えられる助教時代。「洗髪ひとつでも、臨床の楽しさを伝えられていたうれしい」。

の奥にたくさんの想いが詰まっていた。

「周りの優秀さに甘えてばかりの私ですが、みんなの楽しそうな顔を見つれることだけはちょっと得意です」。日々忙しく、気が抜けない看護の仕事だが、その分、患者さんの回復や後進の人的な成長に立ち会い、感謝される喜びも誰より深い。受け身かもしれないが、置かれた場所で咲きなさい、という言葉が好きだ。「若い人たちに見せたいのは、管理職の私たち自身が楽しむ姿。できることが増えるにつれて楽しそう、私たちもステップアップを楽しもう」と思いながら、自身の花を咲かせてもらえたら。そう話す村上部長の笑顔は、軽やかさの奥にたくさんの想いが詰まっていた。



食だより

栄養管理課 管理栄養士 上田 真未

旬を味わう **春**

春キャベツのポトフ

キャベツは季節を問わず手に入れることができる食材ですが、春頃に収穫される「春キャベツ」は他のキャベツに比べ、葉の巻きが緩く、みずみずしく、柔らかいことが特徴です。また、旨味成分が豊富で、甘味が強く、生で食べて食感を味わったり、加熱して甘味を味わったり、さまざまな調理方法を楽しむことができます。

キャベツに多く含まれる栄養素の一つに「ビタミンC」があります。「ビタミンC」は骨や皮膚などに必要なコラーゲンの合成に不可欠な栄養素です。また、鉄分の吸収促進、免疫力強化、抗酸化作用など、さまざまな役割を持っています。「ビタミンC」は水溶性ビタミンです。文字どおり、水に溶ける性質を持っています。そのため、下茹をするのとゆで汁に「ビタミンC」が溶け出てしま



うため、加熱する場合は茹でるのではなく、電子レンジで加熱したり、蒸したり、スープなどの具材として汁も飲むことで摂取することができます。今回は、「ビタミンC」を余すことなく摂取できるレシピを紹介します。「春キャベツ」と同じ春野菜の「新たまねぎ」と一緒に、ぜひお試しください。

■栄養成分(1人分)

エネルギー	124 kcal
たんぱく質	5.2g
脂質	6.0g
炭水化物	13.9g
食塩相当量	1.0g



〈材料〉(2人分)

- キャベツ.....1/8玉
- 玉ねぎ.....1/2個
- じゃがいも.....1/2個
- にんじん.....1/4本
- ブロッコリー.....1/4房
- ウインナー.....2本
- コンソメ(固形).....1/2個
- 塩.....少々
- 水.....300ml程度

〈作り方〉

- キャベツ、玉ねぎはくし形切りに、じゃがいも、にんじんは乱切りにする。
- ブロッコリーを小房に分ける。
- 鍋に①、水、コンソメ(固形)を入れて火にかける。(※アクが出てきたら取り除く。)
- じゃがいもに竹串がスッと通る程度に火が通ったら、②、ウインナーを入れ、塩で味を整える。
- さらに2~3分加熱し、盛り付けて完成。



知識

薬剤部 薬事衛生課 向井 雄治

お薬

抗菌薬の適正使用について

現在、抗菌薬が効きにくい、または効かない薬剤耐性菌が、世界中で脅威となっており、何も対策を行わなければ、2050年までに全世界における死者数は1,000万人に上り、がんによる死亡者数を上回ると推計されています。

そうしたなかで今回は、薬剤耐性菌の発現リスクを抑えるために、皆さまにご協力いただきたいことを紹介します。

① 抗菌薬が処方された際は、**医師の指示どおり最後まで服用してください。**

自己判断で、抗菌薬の用法用量を変更したり、途中で中止したりすると、薬剤耐性菌の発現リスクが高まります。副作用などがない限り、医師の指示どおり最後まで服用してください。

② 処方された抗菌薬を他の人へ譲渡することや譲り受けることは**しないでください。**

抗菌薬に限らず、処方薬をもらうためには医師の処方箋が必要です。また、処方薬を譲渡する行為や譲り受ける行為は法律で禁止されています。



③ **自宅に余っている抗菌薬があっても、自己判断で服用しないでください。**

自己判断での抗菌薬使用は、薬剤耐性菌の発現リスクを高めるだけでなく、副作用やアレルギーなどの発現リスクもあり危険なため、絶対に使用しないでください。また、余っている抗菌薬の処分などで困った際には、最寄りの医療機関にご相談ください。

④ **ウイルス感染や風邪に対して抗菌薬は不要です。**

抗菌薬は「菌」を殺す薬剤であり、ウイルスには効果がありません。また、炎症を鎮めるお薬でもないため、風邪など菌が関与していない疾患では効果を発揮できません。抗菌薬は菌が関与する疾患に対して処方されます。

⑤ **抗菌薬について分からないことは、医師や薬剤師に相談してください。**

皆さまとともに抗菌薬の適正使用に努めることで、薬剤耐性菌の発現リスクを少しでも軽減したいと思えます。ぜひ、ご協力ください。

※「薬剤耐性」で検索していただくと、国より発信されているさまざまな情報を閲覧することができます。

緩和ケアチーム、からのお知らせ

vol.59

がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。

がん相談支援センター

本館2階 患者相談窓口

TEL:06(6774)5152 FAX:06(6774)5126
syakaika@osaka-med.jrc.or.jp

「決めること」は難しい。

緩和ケア科 主任部長 端 裕之

がん患者さんが療養を続けていくうえで大事なことのひとつに「意思決定」があります。例えば治療…、主治医が勧める治療を受けるというのが一般的ですが、医師からの「おすすめ」の選択肢以外に、他院での判断を仰ぐ「セカンドオピニオン」を利用したり、ネットや知人から聞いた治療を主治医に相談してみたり、なかには「治療をしない」という選択をされる方もおられます。しかし、自由度が高くなった分、「どうしたらいいのかよくわからない」という声も多く耳にするようになりました。大切な体のことですから「自分にとっての最善を選びたい」というお気持ちは強いと思います。

「意思決定したいのでそのための情報を知りたい」と思う方も多いでしょう。どのような治療なのか？かかる期間、費用、効果と副作用、他の患者さんが選んでいる治療は？主治医の意見や他の選択肢など多くの疑問があると思います。正しい選択を求めようとすればするほど、たくさん情報を集めなくてはなりません。一方で誤った情報も氾濫して

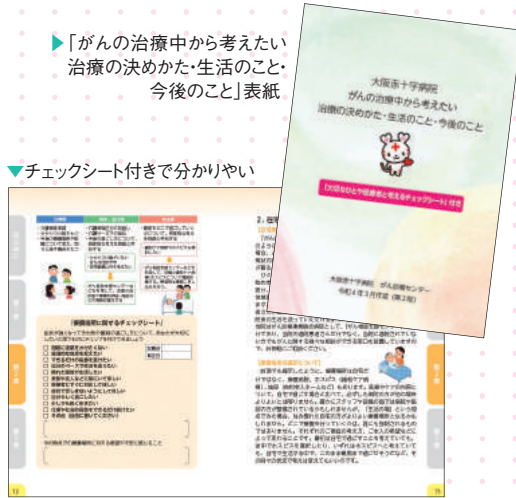
おり、複雑な医療情報が正しいのかどうかを見極めるのは容易ではありません。

集めた情報をどう判断にしなければいい

のか、選択と決定にも悩まれることでしょう。

ご高齢になると自信をもって判断することが難しくなる場合もあります。「いろいろ試しながら自分に合うものを探す」ことができる場合もあれば、「決めること」に余り時間をかけられない病状の場合もあります。

「意思決定が難しい」と感じられた場合には、当院作成の「がんの治療中から考えたい 治療の決めかた・生活のこと 今後のこと」も参考にさせていただき、そのうえで主治医や看護師にお気持ちを伝えることができます。相談内容に応じて院内のがん相談支援センターを紹介することもできます。



▶「がんの治療中から考えたい 治療の決めかた・生活のこと 今後のこと」表紙

▼チェックシート付きで分かりやすい

ご自分らしい治療・療養を続けていくためには、節目ごとに自分で納得のいく選択意思決定を繰り返していくことが必要になります。私たち大阪赤十字病院の医療スタッフは皆さまが納得して治療を受けていただくことを何より大事に思っています。「どうしよう?」と思っただけでも気軽に声がけください。



かかりつけ医 をもちましょう

病院と診療所がその機能や役割を分担しながら、患者さんに適切な医療を提供することが求められています。自分のことをよく知っていて、ちょっとした病気やケガの診察や相談ができる「かかりつけ医」をもちましょう。

かかりつけ医

日ごろの健康管理
専門的な治療が
必要なら当院へ紹介

紹介

逆紹介

大阪赤十字病院

高度医療・専門医療
症状が安定したら再び
「かかりつけ医」へ

医療法人旭友会 池田診療所

内科、循環器内科、小児科

- ・院長/池田 一雄
- ・住所/東大阪市大蓮北2-5-1
- ・電話/06-6728-7548
- ・往診/有(要相談)
- ・訪問診療/有(要相談)
- ・リハビリ/無
- ・診療時間

外来	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~11:45	○	○	○	○	○	○
午後 17:00~18:45	○	○	△	○	○	△

■休診日/日曜、祝日



▲池田院長



▲外観

【特長】

内科疾患全般の診療を行っており、発熱やそれに伴う倦怠感などを診る発熱外来も設けています。

緊急時も可能な範囲で対応しており、より専門的な診療や詳しい検査などが必要な場合は、速やかに連携病院へ紹介しています。

【地域の皆さまへ】

地域のかかりつけ医として、スタッフ一同、患者さん一人ひとりにきめ細やかな対応をできるよう心がけています。体の不調がありお困りの方は気軽にご相談ください。

医療法人白楊会 小尾クリニック

人工透析科

- ・院長/伊藤 聡
- ・住所/大阪市天王寺区大道3-8-31 新天王寺田中ビル
- ・電話/06-6773-3671
- ・往診/無 ・訪問診療/無 ・リハビリ/無
- ・診療時間

人工透析	月	火	水	木	金	土
午前・午後 8:00~18:00	○	○	○	○	○	○
夜間 ~22:00	△	○	△	○	△	○

※現在、内科、腎臓内科、泌尿器科の外来診療は行っていません。
■休診日/日曜



▲伊藤院長



▲各ベッドにアーム式液晶テレビを設置、Wi-Fiも完備。

【特長】

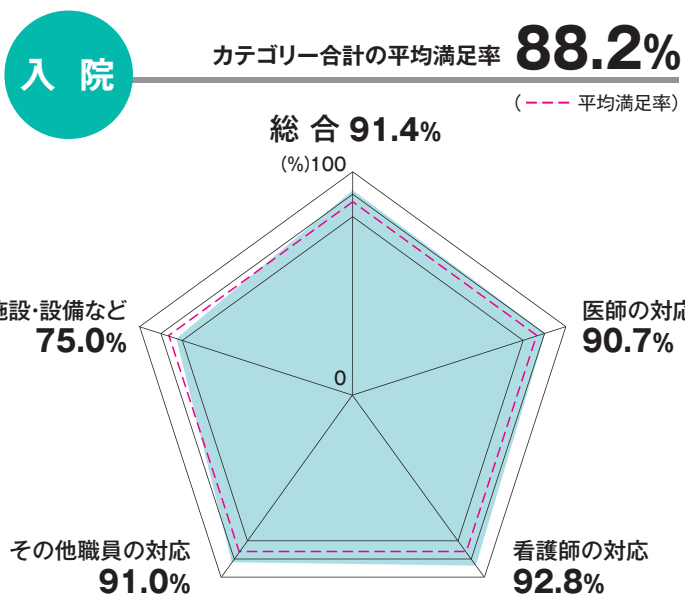
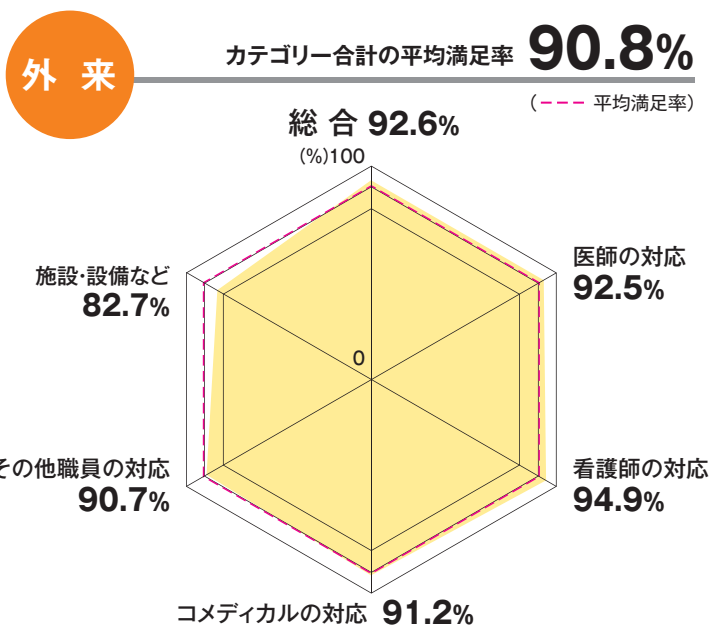
51台のベッドを有する人工透析の専門クリニック(昭和55年創設)です。院長は日本透析医学会の専門医・指導医であり、オンラインHDF(血液ろ過透析)といった新しい血液浄化法やさまざまな薬剤、手法などを駆使して一人ひとりに最適な透析医療を提案しています。透析医療は生涯にわたって続きますので、患者さんの日常生活、仕事や食事、またご家庭の事情にも配慮を欠かさず、人生をしっかりとサポートしていくように心がけています。

【地域の皆さまへ】

日中はご自宅までの無料送迎を行っており、生野区・天王寺区などから約100名の患者さんが通院されています。透析治療はもちろんのこと、高血圧、糖尿病、心臓や下肢の循環器疾患、骨粗鬆症などの合併症対策には特に留意しており、大阪赤十字病院をはじめとする基幹病院と緊密に連携して治療に取り組んでいます。透析や腎不全診療に関するご質問、ご相談は気軽にお声がけください。

▼病院全体の満足率について

各カテゴリーの満足率は、各カテゴリーの合計に対し「非常に満足」「満足」と答えた回答数の割合を表示しています。



▼患者さんからお褒めのコメント

- 医師、看護師、職員の皆さんがやさしいので、ここに来るとホッとします。
- 疑問や質問にも親切に対応してくださり喜んでます。
- 小児科の先生がやさしくて子どもが笑顔になりました。
- 看護師さんの対応も含め、毎回丁寧でわかりやすい説明・処置で、嫌な思いをしたことはありません。
- 看護師さんが忙しいなかでも一生懸命がんばっている姿に元気をもらいました。
- どのスタッフの方も、とても温かく接してくださいました。ありがとうございました。

▼患者さんから改善を求めるコメント

外来

環境整備

Wi-Fiを導入してほしい。
待ち合いの座る場所によって
呼び出し番号が見えないので
工夫してほしい。

回答 Wi-Fiは今年度(令和6年度)中に導入予定です。
令和6年4月に全診療科対応の表示盤を1階・2階のロビーに
設置、外待ち合いの混み合いを避け分散してお待ちいただける
ようになりました。

待ち時間

外来診察のとき、
予約をしていてもかなり待たされ、
何のための予約なのかわからないです。
とにかく待ち時間が長い。
順番が近くなったら
通知されるアプリやツールなどの
導入を検討すべき。

回答 アプリについては、メリット・デメリットを精査して導入に向けて
検討中です。
また、検査結果を医師が確認して診察を行いますので、検査
(採血、採尿、レントゲンなど)が入っている場合は、予約時間前
にお越しいただき検査を受けていただくようお願いいたします
(採血の場合、結果が出るまで1時間~1時間半程度かかります)。
ただし、検査に予約時間がある場合(CT、MRIなど)は、その
時間に検査を受けていただきますよう併せてお願いいたします。

入院

衛生環境

トイレは患者が
毎日使うところです。
掃除がちゃんとできていません。
洗面の排水の流れが悪いです。
入室したときから髪の毛が
詰まってました。

回答 清掃業者へいただいたご意
見を報告し改善いたします。
発見された際はお近くの
職員へお声がけください。
すぐに清掃業者へ対応を
依頼いたします。

環境整備

手洗いの
高さが低い。

回答 洗面所は車イスを使用
している方にも配慮し
た高さとなっています。

食事

食事が大変不満でした。
限られた予算で
仕方ないと思いますが、
メニューや味付けなど、
もう少し考えていただけたらと
思いました。

食事

魚のメニューが多い。
しかも臭みがあり、
食べにくい。

回答 令和元年の1日あたりの食塩摂取量平均値は、男性で10.9g、
女性で9.3gです。これは厚生労働省が実施している「国民健康・
栄養調査」において1日あたりの食塩摂取量目標値の8gより
非常に多く、改善する必要があります。
当院は厚生労働省の目標値8gを基準として食事を調理し
ているため、うす味でおいしくないと感じられる方もおられ
ると思いますが、退院後の食事のお手本となる役割を担え
るよう、安心・安全な食事提供を今後も心がけてまいります。

「外来・入院患者アンケート調査」結果報告

令和5年度の外来・入院患者アンケートの結果を一部報告します。
アンケートの回答にご協力いただきありがとうございます。

実施期間 / 令和5年12月11日~12月15日
対象 / 外来および入院中の患者さん
調査方法 / アンケート用紙への記入およびウェブ回答
回収数 / 外来1,002件(回収率100%) 入院357件(回収率71%)

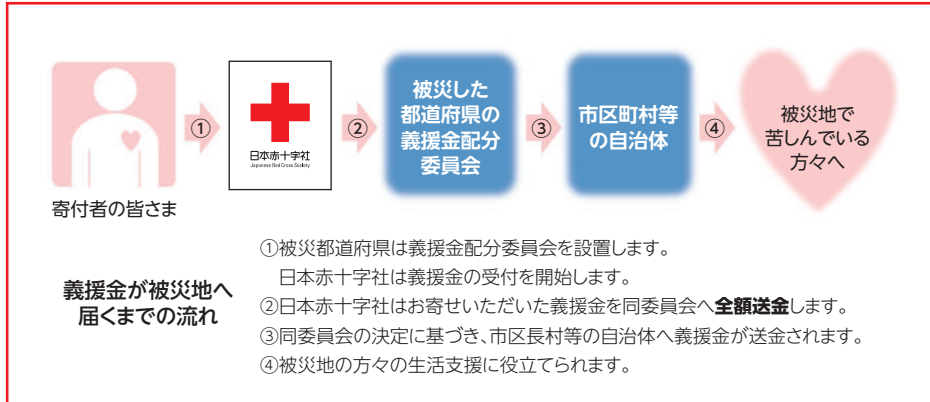


今回の調査の結果を受けて、患者総合支援センターでは、いただいたコメントに対し問題点を調査して改善に努め、患者さんに安心して受診していただける病院をめざしてまいります。

ご寄付 について 皆さまのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

「令和6年能登半島地震災害義援金」の受付について

令和6年能登半島地震で被災された皆さまならびにご家族の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。日本赤十字社では、令和6年能登半島地震災害による義援金を受け付けております。皆さまからお寄せいただきました義援金は、被災地の方々の生活を支援するため、被災都道府県が設置する義援金配分委員会へ全額をお送りします。



受付期間 令和6年1月5日(金)～令和6年12月27日(金)

① ゆうちよ銀行・郵便局

口座記号番号 00150-7-325411

口座加入者名 「日赤令和6年能登半島地震災害義援金」

※受領証の発行を希望する場合は、通信欄に「受領証希望」と記載してください。
※ゆうちょ銀行・郵便局窓口での取扱いの場合、振替手数料は免除されます。

② メガバンク口座

- 三井住友銀行 すずらん支店 普通預金 2787501
- 三菱UFJ銀行 やまびこ支店 普通預金 2105493
- みずほ銀行 クヌギ支店 普通預金 0620669

※口座名義はいずれも「日本赤十字社 にほんせきじゅうじしゃ」
※金融機関によっては、振込手数料が別途かかる場合があります。
※受領証の発行を希望される場合は、本社パートナーシップ推進部(電話:03-4363-2056)に以下の内容をご連絡ください。

【住所、氏名(受領証の宛名)、電話番号、寄付日、寄付額、振込金融機関名及び支店名】

【税制上の取扱いについて】

個人については、所得税法第78条第2項第1号、地方税法第37条の2第1項第1号及第314条の7第1項第1号に規定する寄附金、法人については、法人税法第37条第3項第1号の規定に基づく寄附金に該当します。

●「令和6年能登半島地震」への
当院の対応については、
今号の特集(p2-3)をご覧ください。

活動についてはInstagramでも
発信しています。

▶大阪赤十字病院



▶大阪赤十字病院 国際医療救援部



本誌「びり〜ぶ」について皆さまのお声をお聞かせください

今後も皆さまの声を反映しながら、よりよい情報誌にしていきたいと考えています。
ぜひ、皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。ご協力をお願いします。

アンケート方法

右記のQRコードを
携帯電話で読み取り、
回答後、送信してください。



人事異動情報 (令和5年12月31日付～令和6年4月1日付)

▶採用 (1月1日付)【血液内科】堀澤 欣史(医長) 【小児科】西川 和希(専攻医) 【脳神経外科】杉田 義人(非常勤嘱託医師) (4月1日付)【リウマチ・膠原病内科】桑本 智弘(専攻医) / 寺前 友樹(専攻医) 【腎臓内科】高田 直(専攻医) / 堀川 聖之輔(専攻医) 【血液内科】大中 貴史(副部長) / 有吉 和範(専攻医) / 岡田 慎理(専攻医) / 孫 胡暉(専攻医) 【糖尿病・内分泌内科】加藤 朋子(医師) / 朝井 勇晶(専攻医) / 村部 衣里奈(専攻医) 【消化器内科】小野山 裕亮(医師) / 伊丹 久実(専攻医) / 佐田 奎吾(専攻医) / 榎間 英真(専攻医) / 三宅 雄大(専攻医) / 高谷 広章(非常勤嘱託医師) 【循環器内科】大西 尚昭(医長) / 山田 千夏(医長) / 木村 蓮(医師) / 島村 清貴(医師) / 下条 拓(専攻医) / 徳永 楓子(専攻医) / 町田 尚央(専攻医) 【心臓血管外科】森島 学(非常勤嘱託医師) 【脳神経内科】井上 学(部長) / 宮原 淳一(医長) / 湯川 佳代子(専攻医) 【腫瘍内科】杉本 壮馬(専攻医) 【消化器外科】堀田 健太(医師) / 穂山 竣(医師) / 内山 葵(専攻医) / 大久保 壮哉(専攻医) / 岡田 あずさ(専攻医) / 川相 雄輝(専攻医) / 日笠 兼太郎(専攻医) / 藤本 貴士(専攻医) / 山下 真弥(専攻医) 【乳腺外科】谷田 梨乃(専攻医) 【眼科】留守 涼(非常勤嘱託医師) 【産婦人科】河原 俊介(医長) / 水田 結花(医師) / 山本 絢可(医師) 【耳鼻咽喉科・頭頸部外科】表 宏亮(専攻医) / 北中 麻里(専攻医) 【呼吸器内科】大木元 達也(医師) / 山野 隆史(医師) / 岩垣 慈音(専攻医) / 小川 亮(専攻医) 【呼吸器外科】嶋村 亜紀(専攻医) 【精神神経科】井坂 優(専攻医) 【整形外科】山下 洋一(医師) / 中田 旭彦(専攻医) 【形成外科】堀川 珠未(専攻医) 【脳神経外科】寺田 行範(医長) 【歯科口腔外科】本橋 具和(副部長) / 森本 伊視(非常勤嘱託医師) 【放射線診断科】汪 洋(医師) / 高村 俊哉(専攻医) 【放射線治療科】平田 希美子(医長) 【麻酔科・集中治療部】桑野 翔太(専攻医) / 松井 雅貴(専攻医) / 伊藤 彰仁(非常勤嘱託医師) / 瀨尾 英哉(非常勤嘱託医師) 【救急科】東 秀律(副部長) / 清原 亮太(専攻医) 【病理診断科】浅井 沙月(医師) / 南口 早智子(非常勤嘱託医師) 【教育研修推進室】木下 湧貴(専攻医) / 西村 瑠璃(専攻医) 【大手前整肢学園医務部】奥津 弥一郎(非常勤嘱託医師) 【臨床研修医】青木 杏奈 / 安藤 勇哉 / 石川 真由 / 伊藤 真和 / 小澤 寛太郎 / 高橋 智久 / 戸川 奈月 / 中嶋 考樹 / 西林 宏祐 / 伴 和樹 / 日名子 晃一 / 二川 真由 / 水野 晴仁 / 柳沢 佳奈 【歯科口腔外科臨床研修医】北村 歩 / 勢力 和亮

▶退職 (令和5年12月31日付)【血液内科】水谷 知里(副部長) 【麻酔科・集中治療部】岸田 賢治(非常勤嘱託医) (令和6年3月31日付)【リウマチ・膠原病内科】青木 一将(専攻医) / 岩下 晶穂(専攻医) 【腎臓内科】石田 裕貴(専攻医) / 木下 慶一郎(専攻医) / 村田 幹(専攻医) 【血液内科】池田 正俊(専攻医) / 曾根 万里江(専攻医) 【糖尿病・内分泌内科】米光 新(副部長) / 緒方 康祐(医師) / 櫻井 絢(医師) / 井村 将大(専攻医) / 村部 公亮(専攻医) 【消化器内科】武田 康宏(副部長) / 佃 頌敏(医師) / 森村 博樹(医師) / 岸田 安也名(専攻医→医師) / 野間 有佑(専攻医) / 藤尾 行恵(専攻医) 【循環器内科】中田 雄一(専攻医) / 芝本 恵(非常勤嘱託医師) 【心臓血管外科】福嶋 崇志(医師→非常勤嘱託医師) / 熊谷 基之(非常勤嘱託医師) / 中津 太郎(非常勤嘱託医師) 【脳神経内科】尾崎 彰彦(部長) / 野村 倫子(医師) / 石川 大樹(専攻医) / 福田 まり(専攻医) 【消化器外科】八木 大介(副部長) / 上畑 恭平(医師) / 大西 竜平(医師) / 増尾 彰彦(医師) / 山下 徳之(医師) / 岩井 祐人(専攻医→医師) / 大下 恵樹(専攻医) / 桑本 祥子(専攻医) / 中野 弘志(専攻医) / 日野 真臣(専攻医) / 上野 剛平(非常勤嘱託医師) 【乳腺外科】田中 崇崇(専攻医) 【眼科】濱 佑樹(専攻医) 【産婦人科】野々垣 多加史(部長→非常勤嘱託医師) / 瀨尾 怜子(医師) / 平山 貴裕(医師) 【皮膚科】佐々木 洋香(医師) / 高瀬 早和子(非常勤嘱託医師) / 西村 陽一(非常勤嘱託医師) 【耳鼻咽喉科・頭頸部外科】堀 秀成(医師) / 江藤 杏奈(専攻医→医師) / 大江 健吾(非常勤嘱託医師) / 北田 有史(非常勤嘱託医師) 【小児科】榎 辰也(専攻医) / 難波 かりり(専攻医→医師) / 西川 和希(専攻医) / 西林 優(専攻医) / 安西 香織(非常勤嘱託医師) 【呼吸器内科】西坂 泰夫(部長) / 土肥 和佳(医師) / 伊藤 雅弘(専攻医) / 岡田 暢紅(専攻医) / 高橋 祥太(専攻医→医師) / 矢野 翔平(専攻医) / 吉田 薫(専攻医) 【呼吸器外科】洪 雄貴(医師) / 大迫 隆敏(専攻医) 【精神神経科】大村 夕美(医師) / 山本 和功(専攻医→医師) / 土戸 光雄(非常勤嘱託医師) 【整形外科】芳山 貴樹(医師) 【形成外科】津田 愛梨香(専攻医) 【脳神経外科】大塚 亮太郎(非常勤嘱託医師) / 尾崎 沙耶(非常勤嘱託医師) 【歯科口腔外科】杉立 光史(部長) / 北浦 璃子(非常勤嘱託医師) / 長谷 小町(非常勤嘱託医師) 【放射線診断科】岩崎 さゆり(医師) / 中島 宏徳(医師) / 羽賀 すみれ(専攻医) 【放射線治療科】岸 高宏(医師) 【麻酔科・集中治療部】櫻井 光太郎(非常勤嘱託医師) / 関口 貴代(非常勤嘱託医師→医師) / 松見 絵梨子(非常勤嘱託医師) / 平 葉月(歯科医師→非常勤嘱託医師) / 濱田 翔太(歯科医師→非常勤嘱託医師) / 百田 裕加(歯科医師→非常勤嘱託医師) 【救急科】清水 拓也(非常勤嘱託医師) / 藤原 直樹(非常勤嘱託医師) 【国際医療救援部】中出 雅治(部長) 【病理診断科】合田 直樹(非常勤嘱託医師) / 家村 宜樹(非常勤嘱託医師) / 宇野 俊輔(非常勤嘱託医師) / 寺田 和弘(非常勤嘱託医師) / 藤本 正数(非常勤嘱託医師) / 山田 洋介(非常勤嘱託医師) 【教育研修推進室】鈴木 智之(専攻医) 【大手前整肢学園医務部】豊島 映里(医長) 【臨床研修医】亀井 美奈 / 紀谷 拓音 / 佐藤 聡太 / 立岡 佑理 / 谷岡 弘彬 / 増田 健人 / 赤田 威(研修医→専攻医) / 池田 淑代(研修医→専攻医) / 大村 綾(研修医→専攻医) / 手納 忠信(研修医→専攻医) / 長谷川 真意(研修医→専攻医) / 宮里 智博(研修医→専攻医) / 山田 祐輔(研修医→専攻医) 【歯科口腔外科臨床研修医】湯川 遼季(研修医)

病院のご案内

■受付時間(月～金) (診療開始は午前8:45からです)
初診/月曜日～金曜日 8:30～11:30
再診/月曜日～金曜日 8:00～11:45

■休診日 土・日・祝・5月1日(本社創立記念日)・12月29日～1月3日

■診察券 診察券は全共通用で使えますので、ご来院時には必ずお持ちください。

■ご面会 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、一部を制限しています。

■保険証等 保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

LINE

友だち登録してね



随時配信中!

Instagram

フォローしてね



当院は
敷地内全面
禁煙です
ご理解とご協力を
お願いします。

大阪赤十字病院

大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30 令和6年4月発行

■お問い合わせ TEL:06-6774-5111(代表)

大阪赤十字病院 <https://www.osaka-med.jrc.or.jp>
赤十字全般 <https://www.jrc.or.jp>

